

産山学園便り

夢 創造

▶「春はあけぼの・・・」と詠まれる季節の到来を感じながら、通勤途中に朝日を撮影しました。



平成31年3月22日（金）no.36 文責：上田

第3回学園運営協議会

第5回義務教育学校推進協議会

14日（木）に今年度の第3回学園運営協議会、19日（火）に昨年度からの第5回義務教育学校推進協議会がそれぞれ実施されました。

学園運営協議会には、学識者としての木村崇城大学准教授や地域学校協働本部活動、子ども教室、放課後児童クラブ、PTA、教育委員会の各代表の委員さん方に参加いただき、「地域とともにある学校づくり」を進めてきた学園のこの一年の教育活動について協議を行いました。また、義務教育学校推進協議会には、各区区長さんや村議会議員、学園運営協議会、PTA、教育委員会の各代表の委員さん方に参加いただき、校歌・校章などの学園創設にあたっての協議事項、校舎の改築の状況等について協議いただきました。

どちらの協議会でも、創立1年目の産山学園の現状（確かな学力、豊かな心の育成など）について話す機会があり、これまでの成果と今後の課題について、いろいろな視点からご意見をいただくことができました。特に、次年度以降にさらに期待をしたいとの励ましには感謝の思いとともに改善への意欲を高くしました。なお、義務教育学校推進協議会は今回をもって一定の役割を終えたことが確認されました。ご参会いただいた皆さんにはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。



熊日新聞 編集・論説委員 小多 崇 氏 講話

15日（金）、7・8年生を対象に、熊本日日新聞社の編集・論説委員：小多 崇（こだ たかし）さんに、キャリア教育の一環で講話いただきました。熊本地震の連載記事など、真実を伝えるという記者としての使命はもちろん、取材を通して出会った人々の思いをどのように記事にしたらいいのかなど、社会に問いかけるという責任をもって執筆されたことが強く感じられました。

講話の中では、熊本地震当初、多くの市町村が避難内容を把握できないのに対して「全半壊した住宅に住み続けている住民の把握」を産山村だけが行ってたという記事も紹介されました。

小多さんが「仕事＝学びであり、（自身も）今も学び続けている」「興味の幅を広げてほしい」「理解・共感が大切だ」等と話される一言一言に、将来、子どもたちが自分と社会を結びつける『他人事⇄自分事、つながり』の視点も学ぶことができました。

小多さんにはご多用な中、ご講話いただきありがとうございました。

